

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371200649		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	名古屋南ケアセンターそよ風(西ユニット)		
所在地	名古屋市南区白雲町6		
自己評価作成日	令和03年11月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osyoCd=2371200649-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和4年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の静かな環境の中にあり、笠寺観音や笠寺公園といった大きな公園も近隣にあり、環境に恵まれています。コロナウィルスの関係で、現在は外出レクリエーションは行っていませんが、デイサービスが併設しているため、デイサービスの車を利用して皆で出かけることも通常では出来ます。家族会や地域の行事も昨年より中止になっており、グループ内で出来る行事を毎月計画し利用者の皆様に楽しんで頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事務所・フロア内に掲示してあり意識している。理念の中にある喜びや楽しみのある生活を送るという事を意識して支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今は外部との交流を制限されておりますが、暖かい日は近隣の公園などを散歩したりしています。回覧板を次の家へ届けに行ったりし、今できる範囲のことをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	直接地域の人人々々に対する働きかけはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウィルスの関係で、現在運営推進会議は2ヶ月に1回書面にて行わせて頂いている。利用者様の様子や取り組みを伝えさせて頂いている。家族様から頂いたご意見ご要望は職員全員に周知サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	現在は会議を中止しているが、いきいき支援センターの方や区政協力委員の方に書面にてコメントを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束の研修を行い、拘束が無いケアが利用者様にとって良いことだということを十分に理解し見守りの強化に努めている。身体拘束をしないケアを職員全員が意識付けを行っている。新人職員には入職時に説明をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に虐待防止の研修を行い、虐待につながる流れや、どう防止するかについて話し合いをし、虐待になる前に注意をするよう意識している。虐待に繋がりがかねない対応は全体会議で発表し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用されている利用者はいりますが、学ぶ機会は現状ではありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には不安や疑問点をお聞きし、十分な説明を行い、ご要望などをお聞きし、理解・納得をして頂いている。改定等の際は書類の取り交わしをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からは日々の会話の中で要望などお聞きしている。家族様からは家族面談時にお聞きしたり、文書による運営推進会議のご意見・ご要望として照会書を頂いている。頂いた意見・要望は職員に周知し、運営に反映するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	部署会議や全体会議で意見や提案を言う機会がある。出た意見を皆で検討し実践したりしている。日常的にも意見は言いやすい環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の人数の余裕はないため、ストレスになりやすいが、業務内容の見直しをしたり、残業が多くならないように努めている。常に感じることや気になることが無いか、職員同士話せる環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員は先輩職員から働きながら介護に必要な知識やスキルを学べるよう3ヶ月間トレーナーがついている。毎月全体会議において各テーマで研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	以前は交流会に加入していたが、現在は参加しておらず同業者と交流の機会はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にお会いさせて頂き本人と面談し要望を伺っている。身体面も出来るだけ詳しく聞き、安心して頂けるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申込時に困っていることをお聞きしたり、サービス導入する段階で不安な事や要望をお聞きしている。利用者が安心して生活して頂けるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族が何を必要としているかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事はして頂き、難しいところはサポートし、本人の能力を生かして、共に支えあう関係作りに努めている。暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何か変化があれば連絡しご家族様の意見やアドバイスなどの協力のもとで支援に努めている。面会時には様子を伝えたり、本人が電話を希望されればかけさせて頂き、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の今の状況では馴染みの場所に行くことはできないが、面会が可能になった時はすぐに連絡をし、面会に来られた時は時間の制限はあるが、ゆっくりして頂けるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事は協力して行ってもらっている。親しい間柄の者同士楽しく話せるように座席を考えたり、孤立しないように職員が輪に入らせて頂き、関わり合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した方の家族様と施設外でお会いした時などは近況をお聞きしたりしている。コロナ禍でなければ入院されている方には面会に行かせて頂いたりはさせて頂いていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望が聞き出せるような会話を心がけている。困難な方には行動や表情から本人の思いをくみ取り、本人本位に検討し、実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に【これまでの生活の経過】を記入して頂いたり、直接ご本人や家族からお聞きしている。日々の会話の中から新しい情報を頂くこともあり、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの過ごし方、心身状態は申し送りで把握している。特に変わったことがあれば記録に残し問題があればすぐに話し合っている。できる事はして頂くように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画はまず本人や家族に要望を伺い、職員にも意見を聞いて作成している。ご本人の現状を把握した上でよりよいサービスが提供できるように考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過・気分様子・体調の変化の記録はしっかりやっている。部署会議や申し送りで情報を共有している。記録に基づいて見直しが必要かを見極め、次の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の変化や家族の要望に対してはその都度検討し、できる範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で自由に地域資源を利用することはできていないが、近隣の公園に花見に行ったり、日差しを浴び、外気に触れて頂き、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医と本人・家族とで面談を行っている。2週間に1度訪問診療があり、状態を診てもらっている。かかりつけ医とは別に専門科に通院されている人もおり、納得されたところで医療を受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設デイサービスの看護師に平日は来てもらっている。排便に関する状況によっては処置してもらっている。気になることがあれば相談し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医に入院の場合は、状態をお聞きしたり、情報交換や相談をしている。それ以外の病院への入院は入院時に介護サマリーを提供し、利用者の情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期のあり方について意思確認をさせて頂き、事業所でできる事を説明し、書類の取り交わしをしている。重度化した場合、再度話し合いの場をもうけ、段階的に話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	各フロアにマニュアルを設置してある。経験の浅い職員は実践力まではない。勉強会を行うことはあるが、定期的に行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年間2回の避難訓練をデイサービスと合同で行っている。夜間想定避難訓練も行っている。消防署員の方に災害時に関する消防設備についての指導を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し拒否や否定をせず誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう心がけている。気になる言葉かけを聞いた時は注意し、会議の場でも報告をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の都合で利用者の自由を奪わないような対応を心がけている。促しをし、自己決定できるような言葉かけをしたり、選択肢を増やすようにしている。自己決定できない人には本人本位に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ある程度の時間は決まっているが、一人ひとりの能力やペースを把握し、その方の希望する過ごし方ができるように支援することを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で洋服が選べる方には自由に選んで頂いている。起床時は洗面台で髪を整えて頂いている。訪問理美容では自分で希望を言えるように支援し、毛染めをしたい方には希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しくなるような言葉かけをしている。盛り付け、食後の片づけは積極的な方、得意な方をお願いしている。歩行不安定な方には食器拭きをして頂いている。グループでの食事作りの時は、好きな献立をお聞きしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方の食事量に合わせて摂取して頂いている。刻み・トロミ・ミキサー等必要な形態で提供している。必要に応じて栄養補助食品や補助飲料を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの促しや介助を行っている。個々に応じた用品で口腔ケアの仕方も考えて行っている。義歯は入歯洗浄剤で清潔にできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	尿意を訴えられない方は定時トイレ誘導をし、トイレで排泄できるように支援している。排泄の記録を残し、排泄パターンを把握するように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日申し送りに排便の状況を書き、個々に応じた排便コントロールをしている。便秘にならないように水分をしっかり摂って頂いたり、毎朝ヨーグルトを提供し、体操の促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	およその時間は決まっており、1日おきに入浴して頂いている。一人ひとりの湯加減を調整させてさせて頂いたり、入浴剤を用いて、日によって違うものを使用し、香りや色を楽しんで頂いている。入浴中は楽しい会話をさせて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自立されている人は自分のペースで就寝して頂いている。日中も自由に休んで頂いている。意思表示ができない方は様子を伺い休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の目的・用法・用量の把握はしているが、全職員ではない。一人ひとり服薬の仕方を考え、チェック表を用いて段階的にミスが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事は役割として、できる事をして頂いている。塗り絵・プリント類・レクリエーション等、一人ひとりの楽しみ事や気分転換の支援をしている。牛乳やノンアルコールビール等、希望の飲み物を用意させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	現在はコロナウィルスの関係で、外食や買い物には出かけることが出来ないが、室内だけの生活にならないように、敷地内や近隣の公園に出かけられるよう支援に努めている。家族の協力で、自宅に行き、家族と一緒に過ごされる利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍で現在買い物に出かけることはできないが、お小遣いを預かせて頂き、ご本人の希望する物があれば使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	声が聞きたくなくなったりお話をしたくて電話を希望された時は、家族の都合をお聞きしてから電話をして頂いている。年末には年賀状の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は整理整頓に努めている。洗面台には家族様が定期的に持ってきてくださる花が飾っており、見て楽しんで頂いている。カーテン等で直射日光を遮ったり、季節感を取り入れた物を飾るなどの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席では気の合った者同士で座って頂き仲良く話をして頂いたり、ソファでは好きな番組や歌番組を観ながら思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた物を持ってきていただいたり、カウンターには家族の写真を飾ったりしている。居室で過ごすことがある方は、テレビを見たりカウンターで好きなことが出来るように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるよう、居室には表札をかけ、自分の部屋が迷わずわかるようにさせて頂いたり、トイレも分かりやすく貼り紙をしている。利用者が移動される場所には躓く原因になる物がないよう気を付けている。		